

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育ケアMARINE RAINBOW		
○保護者評価実施期間	令和7年10月6日		～ 令和7年11月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	令和7年10月6日		～ 令和7年11月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11月14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童様一人ひとりに丁寧に向き合う支援姿勢と日常的な情報共有体制。	室内の環境に制約がある中でも、児童様の感情や状態に丁寧に引き合い、朝礼や打ち合わせを通じて職員間で情報共有を行い、支援を進めている点は本事業所の大きな強みである。今後も、職員による児童様への理解を基盤とした支援の質の維持・向上が期待される。	児童様ごとの関わり方を簡潔に記録し、職員間での共通理解を図る。 朝礼やミーティングを活用し、変化等を即時共有する。
2	支援計画・記録・モニタリングが安定して実施されている点。	アセスメント、支援計画作成、記録、定期的なモニタリングについては、計画に基づいた支援と振り返りが日常業務として定着している。これらを体系的に整理・可視化することで、さらに強みとして明確化できる。	計画・記録様式を整理し、要点が一目で分かる形に統一する。 モニタリング結果を次の支援目標へ確実に反映させる流れを明確化する。
3	安全管理・事故防止・虐待防止に対する意識の高さ。	ヒヤリハットの共有、虐待防止研修、安全計画の整備などについて高い評価が見られ、組織として「児童様の安全を守る」姿勢が浸透している点は大きな強みである。今後はご家族様へ訓練の周知を進めることで、より信頼性の高い体制となる。	ヒヤリハット事例を定期的に振り返り、具体的な再発防止策を共有する。 安全・虐待防止研修を継続し、職員全体の意識と対応力を維持・向上させる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	限られた空間・人員の中での柔軟な支援方法の工夫。	スペースが十分でない場面では、活動内容を工夫したり、複数人での運動遊びを取り入れることで環境面の課題を補っている。また、必要に応じて個別対応を行うなど、状況に応じた柔軟な支援を意識している。	活動スペースや時間帯を明確に分け、スペースに応じた支援導線を設定する。 補助療育教材や個別ツールを活用し、支援の質を保つ工夫を進める。
2	研修・ガイドライン理解の「見える化」。	研修について、周知されていないと感じる職員がいるため、実施状況や目的を共有し、周知の仕組みを整えることで、組織的な学びと質の向上につなげることが望まれる。	研修受講履歴を周知していく。 ガイドラインの要点を掲示・共有し、日々の支援と結びつけて理解を深める。
3	地域・関係機関との連携強化。	学校以外の医療・福祉・地域機関との連携、地域交流については評価が低めであるため、無理のない範囲で情報交換や連携機会を増やし、支援の幅を広げていく必要がある。	地域行事や合同研修への参加を通じ、顔の見える連携関係を築く。